

高温に強く、良食味・多収で病気に強い中生品種

こいのよかん  
**恋の予感**

## ★特徴(対ヒノヒカリ)

- ① 出穂・成熟期が2～4日程度遅い。
- ② 稈長が短く、耐倒伏性も高い。
- ③ いもち病に強く、縞葉枯病に対し抵抗性を持つ。
- ④ 白未熟粒の発生率少なく、外観品質が優れる。
- ⑤ 穂数は少ないが、穂重が多く収量が10%程度多い。
- ⑥ 食味は良食味で同程度である。

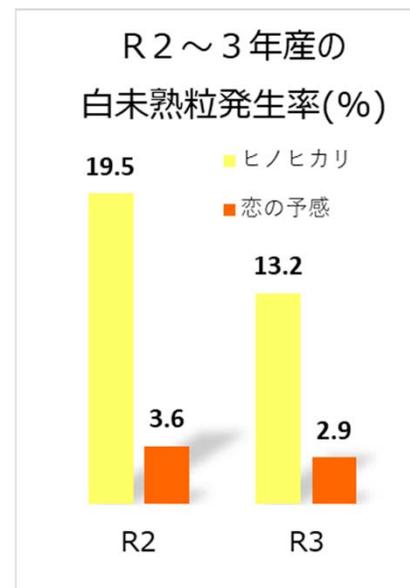


表 「恋の予感」の試験栽培(羽曳野市、6月10日頃移植)における特性概要(H30～R3までの4年間の平均)

品種名	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)	稈長 (cm)	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	玄米収量 (kg/10a)	同左比 (%)	整粒 (%)	白未熟粒 計(%)	未熟粒計 (%)	蛋白	アミロース (%)
恋の予感	8.27	10.02	76.6	320	616	110	73.3	6.7	13.6	6.4	18.6
ヒノヒカリ	8.24	9.29	84.2	393	558	100	56.5	20.5	33.8	6.9	18.4

# 恋の予感 栽培暦(簡易版)

月旬	5			6			7			8			9			10																
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中															
生育ステージ	播種期			← 20~25日 →			田植え			← 40~45日 →			最高分けつ			← 35日程度 →			出穂期		←		収穫期									
水管理																																
主な作業・注意事項	○ 種子予措・消毒			○ 苗つくり 乾粕は150g/箱			○ 基肥の施肥 基肥一発 窒素8~10kg/10a			○ 植付け 栽植密度42~60株/坪			○ 除草剤 ↓効果が低下する恐れ 入水は控える 除草剤散布後田面が乾かないかぎり			○ 初期管理 肥料や水管理で初期分けつは確保すること			○ 中干し 田面に軽く亀裂が入る程度			○ 病害虫対策 こまめな入水で管理 高温時は水温を上げないために			○ 出穂期前後の水管理 カメムシやウンカなど基本的防除は必須 いもち病と縞葉枯病には強い		○ 病害虫対策		○ 刈取適期の判断 青米が1割程度残っている状態		○ 早期の完全落水をしない 出穂後4週までは間断かん水で	

高温に強く、多収で倒れにくい極早生品種

# てんたかく81

## ★特徴(対キヌヒカリ)

- ① 出穂期が7日、成熟期が10日程度早い。
- ② 稈長が同等～短く、耐倒伏性も高い。
- ③ 穂数が多く、収量が10%多い。
- ④ 穂発芽しにくく、催芽浸種時間が長い。
- ⑤ 白未熟粒の発生率少なく、外観品質が優れる。
- ⑥ 食味は良食味でややさっぱりしている。

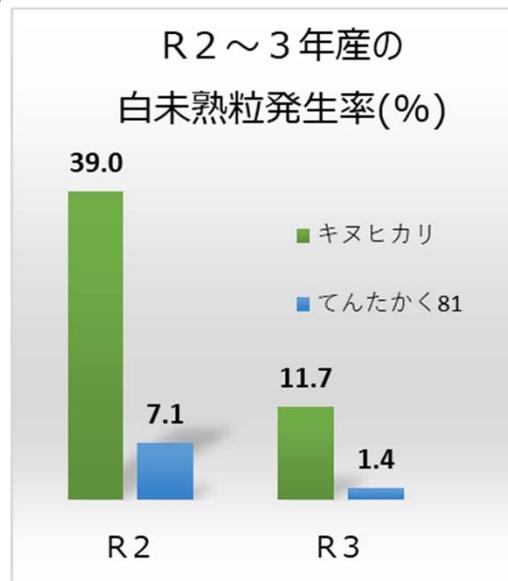


表 「てんたかく81」の試験栽培(羽曳野市、5月20日頃移植)における特性概要(R3)

品種名	出穂期 (月.日)	成熟期 (月.日)	稈長 (cm)	穂数 (本/m <sup>2</sup> )	玄米収量 (kg/10a)	同左比 (%)	整粒 (%)	白未熟粒 計(%)	未熟粒計 (%)	蛋白	アミロース (%)
てんたかく81	7.21	8.17	77.3	401	626	110	73.9	1.4	12.1	7.3	18.4
キヌヒカリ	7.29	9.01	80.8	291	529	100	78.7	11.9	15.4	6.6	18.6

※「てんたかく81」は富山県が「てんたかく」を一部改良した品種です。「てんたかく81」は「てんたかく」と品質・食味等が同等であることから、大阪府産「てんたかく」の品種群として、産地品種銘柄に設定されました。このため、大阪府で栽培された「てんたかく81」は、検査・流通において、「てんたかく」として扱われます。

令和4年4月

地方独立行政法人大阪府立環境農林水産総合研究所  
大阪府農政室 大阪府種子協会

# てんたかく81 栽培暦(簡易版)

月	4			5			6			7			8			9												
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中											
生育ステージ	播種期			← 27~37日 →			田植え			← 30~35日 →			最高分けつ			← 27~33日程度 →			出穂期		←		収穫期					
水管理																												
主な作業・注意事項	○ 種子予措・消毒			○ 苗つくり 乾籾は150g/箱			○ 基肥の施肥 倒伏はしにくいが、窒素過多は減収の恐れ 基肥一発 窒素8~9kg/10a			○ 植付け 栽植密度42~60株/坪			○ 除草剤 入水は控える ↓効果が低下する恐れ 除草剤散布後田面が乾かないかぎり			○ 中干し 田面に軽く亀裂が入る程度			○ 病害虫対策 カメムシやウンカなど基本的防除は必須 いもち病と縞葉枯病に強い			○ 出穂期前後の水管理 こまめな入水で管理 高温時は水温を上げないために			○ 早期の完全落水をしない 出穂後4週までは間断かん水で		○ 刈取適期の判断 青米が1割程度残っている状態	